



2011-12年度国際ロータリーのテーマ

# こころの中を みつめよう博愛を 広げるために

RI 会長：カルヤン・バネルジー  
2800 地区ガバナー：細谷 伸夫  
ガバナー 補佐：本多 信昭  
会長：武田 寿美男 幹事：伊勢 和正  
クラブ会報委員会  
委員長：太田 幸一郎  
委員：青山 恵一郎 木村 政則  
下山 洋司 金井 和義

## 山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2800

### RI 会長メッセージ



### 「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために Reach Within to Embrace Humanity」

2011-12年度国際ロータリー会長

カルヤン・バネルジー 氏

2011-12年度には、まず自分自身を見つめ直すこと、すなわち「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」のテーマを実践していただきたいというのが、ロータリアンの皆さまへの私からのお願いです。深く自己を省みることによって、人類が皆、同じ夢、同じ希望、同じ願望、同じ問題を分かち合っていることを、理解していただきたいのです。誰であろうと、どこに住んでいようと、私たちはそれぞれ、同じように平和と充足を願い、充実した毎日を送りたいと望んでいます。人に何かを与えようとするなら、まず自分自信にそれを与えることです。なぜなら、自らが抱く望みを理解せずして、人々の望みを理解することはできないからです。

全世界で平和について語る前に、まずは自分から始め、その後外に目を向ける必要があります。心に平和を見出してこそ、家の中に平和をもたらし、家族に平和をもたらし、そして地域社会に平和をもたらすことができるのです。同様に、全世界で平和を築こうとする前に、まず自分の家庭で平和を築き、全世界で友情と寛容の心を育もうとする前に、まず自分の周りの人々に対してそれを実践しなければなりません。言い換えれば、心が平和であれば、家庭が平和になり、この平和をほかの人々と分かち合うことができるということです。愛する人、大切な人と一緒にいることに喜びと満足を感じるように、私たちは、他者を大切にすることができるのです。

自分が強くなれば、共に生きる人々や家族も強くなります。そして、強い家族を土台にして前進していくことができるのです。うちに強さを秘めた人々が協力すれば、人類にもより良く奉仕することができます。これこそ、私たちがロータリーで行っていることです。

次年度には、ロータリーの奉仕において3つの強調事項に力を注いでいきたいと思えます。第一に、強い家族を築くこと、第二に私たちが一番得意とすることを継続していくこと、最後に、変える必要があることは変えるということです。

年度の第一の強調事項は、「家族」です。万事は家族から始まります。私たちが行う奉仕すべて、また世界で成し遂げたいと望むことすべての出発点は、家族にあります。そして、あらゆる家族の中心を成しているのが、母と子です。ここから始めてこそ、人々の生活や地域社会全体を通じて、世界をより良くしていくことができるのです。

第二の強調事項は、「継続」です。私たちが得意とすることは何かを知り、それを継続しながら次のレベルへと高めていくことです。私たちは昔、ロータリーの奉仕で成功を収めてきました。これらの成功を土台に、今後もさらに多くの人々に手を差し伸べていくことができるでしょう。ですから、きれいで安全な水の提供、疾病の予防、識字力の普及、新世代のための活動や新世代との協力、平和への努力といった活動を、これからも続けていかなければなりません。

同時に、改善できること、変えるべきことがあることを、私たちは知っています。こうした事実を勇気をもって見据え、変えるべきことは何かを見定め、必要な変化をもたらしていくために行動していかなければなりません。

例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
山形西 山形イブニング	山形中央	山形	山形北	山形東

マハトマ・ガンジーはかつて次のように述べました。「世界の変化を望むなら、あなた自身がその変化にならなければならない。」ロータリーにおいては、私たちは、友情と親善を分かち合い、あらゆる人々の真の価値を見極めるために、倫理的に、誠実に生きようと努力しています。ロータリアンは並みのことには満足しません。なぜならロータリーは非凡な組織であり、ロータリアンは類まれな人々だからです。私たちが自分自身を高めることによって、世界を高めようとするのは、このためなのです。

私たちは皆、ロータリーを通じて世界を変えたいと望んでいます。ロータリアンとなる理由は、まさにこれに尽きるのではないのでしょうか。幸せと健康と平和にあふれた世界をつくることができる、過去よりも明るい未来を築くことができると、私たちは信じています。理想主義者である私たちは、ロータリーの奉仕を通じてこの理想を実現しているのです。

2011～12年度の第三の強調事項を「変化」としたのは、このためです。世界に望んでいる変化に、まず私たち自身なることです。平和を望むなら、家庭に、地域社会に、自分自身の生活に平和をもたらすことから始めるのです。ポリオや他の病気を世界からなくし、環境破壊に歯止めをかけ、子どもの死亡率を減らし、識字率を高め、飢えを減らしたいと望むなら、自分自身がこの変化の担い手とならなければなりません。それには、まず自分の中にこそ変化を起こすことの必要性を認識しなければならないのです。

「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために。」平和、調和、そして友情の精神の中で変化をもたらし、すべての人々のために、さらに喜びある世界を築いていこうではありませんか。

Kalyan Banerjee



## 2011～12年度を迎えて 「思いやりの心を育て、広めよう」 — 自分に、家庭に、地域に、世界に

国際ロータリー第2800地区  
2011～2012年度ガバナー

細谷伸夫氏

2011年3月11日の東日本大震災及び原発事故の発生により日本は大きく変わりました。これまでの行き過ぎた資本主義、機械文明、拝金主義、依存症候群にいられた日本社会は家族の絆の重要性・ありがたさ、近所・地域の人々に支えられて生きてきたこと、困った人を助けようとする気持ちの尊さに気づき、それを人生の中核に置こうとして来ている。そしてそれは他人から与えられるものではなく、自分の心の中に生まれるものと教えられたのです。

この他人を思いやる心がロータリー創設以来変わることなく親睦、職業奉仕、奉仕活動等の基軸であると考えています。

人間本来持っている心であるが、産業革命以来忘れ去られ、置き去りにされていたこの思いやりの心を今よみがえらせることがロータリー、ロータリアンに求められていると考えます。

そのような意味も込めて地区目標は「思いやりの心を育て、広めよう」と致しました。

ロータリーは職業奉仕を中核とし、職業奉仕とは、お客様に対し思いやりの心を持って仕事をするということと考えますし、相手に対し思いやりの心をもって接するには、従業員に対し、又家族に対し思いやりの心を持って接しなければ、それは実現しないでしょう。そして周りの方々に対し思いやりの心で接するには、まず自分が思いやりの心を持つことが必然的であると思うのです。自分が思いやりの心を持つとは、自分の心が思いやりの心で満たされることです。

カルヤン・バネルジーRI会長エレクトは、「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」をRIテーマとしました。会員一人一人が自分の心の中を見つめ、そこに思いやりの心、すなわち奉仕の理想があるか否かを見つめて下さい。自分の心の中に思いやりの心がなければ、外に向かって、他の人に対し思いやりの心かけることは出来ない、と言っているのです。そして、その思いやりの心を大きく育て外に向かって思いやりの心を持って行動しましょう、と言っております。

今年度はロータリーで、あるいはロータリアンとして何をしたいのかを、心の中に見つめ、その思いを育て、外に向かって行動し実現する年にしたいと思えます。

そして、ロータリーが楽しく喜びの顔が多くなるように、一緒になって行動しましょう。

これから地区では、各委員会のセミナー、公式訪問、地区大会等が予定されております。各クラブにおいても、会長さんを中心に独自に、おらがクラブと自慢できるクラブ作り、他ではやっていない活動をして頂ければ幸いです。

ともあれ、どんよりした経済、社会の中に光明が差し込むように元気に活動し、社会を明るくしようではありませんか。

こころの中を見つめよう、博愛を広げるために。